

学校関係者評価委員会

日 時：2022年3月22日（火）15:00～

1. カリキュラム評価

1) 講義評価総括

2021年度の全科目の終講試験の平均点は、昨年度に比較し上昇した。また、学生による講義評価は平均3.4点と昨年度に引き続き高い結果となった。COVID-19による影響で多くの授業でオンラインと対面を組み合わせた授業となったが、各講師がチャット機能や動画を取り入れたり、オンライン授業に対応した資料を作成し直す等の工夫をした結果により学生の満足感に繋がったと考えられる。

2) 実習科目評価

COVID-19の影響によりオンライン・学内実習に切り替えとなったケースが多く、臨地実習実施率は40.3%であった。臨地実習の科目評価平均点は全ての実習で80点以上であり、実習目標に到達できた。しかし、臨地実習経験が少ないことで、3年生後期においても対象との関わりやコミュニケーションに戸惑う様子がみられた。1・2年生はおおむね予定通り臨地実習が実施できた。いずれも昨年度に比較し学生による実習評価は高くなった。今後も実習指導者と密に連携して実習指導に取り組んでいく。

2. 卒業時のカリキュラムに関する満足度調査

2021年度の平均は、2020年度の3.3に比較し、3.4と0.1上昇した。しかし、「わかりやすい授業が多い」「学校職員は学生の関心事に耳を傾け、近づきやすい存在である」は評価が低い傾向にあり、学校全体で取り組んではいるが、一層の努力が必要である。一方「専門的な知識が身に付く」「専門的な技術が身に付く」は高い評価となっており、専門的知識・技術の習得に満足して卒業したと考えられる。